



令和 5 (2023) 年度

# 学校要覧

## チェンナイ補習授業校

JAPANESE SCHOOL EDUCATIONAL TRUST OF CHENNAI

INDIA

CHENNAI



## <目 次>

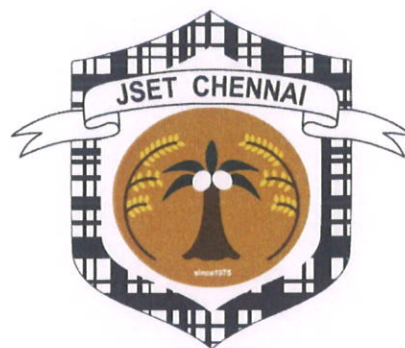
○ 目次	1
○ チェンナイ補習授業校 校歌	2
I 学校沿革史	3 ~ 9
II 学校の概要	10
III 学校運営について	11 ~ 12
IV 学校経営計画	12 ~ 13
V 教育課程	13 ~ 14
年間予定	15
VI 学校運営委員一覧	16 ~ 21
VII 関係規則	
1 チェンナイ補習授業校規則	22 ~ 27
2 チェンナイ補習授業校における安全対策	28 ~ 29

## 校章について

1975年の創立から40年を経た記念にと、児童・生徒が原案を考え、生まれた校章。

中央にヤシの木。その両横には、稲穂。そして、それらの背景に描かれているのは、当地の伝統的な模様であるマドラスチェック。

食生活の基となる大切な植物が大きく育つように、自然豊かなこの地で、共にすくすくと育っていかうという気持ちが込められています。



## チェンナイ補習授業校校歌

作詞 会沢俊夫  
作曲 保護者会

Allegro

お お そ ら た か ー く あ  
お い う み み ん な な か よ く す ー  
こ や か に ヤ シ の は し げ る ま な  
び の に わ よ あ あ わ れ ら  
が チェ ン ナ イ ほ し ゆ う こ う

三. 故郷離れて 広い大地を 明日への道を ああ我等が	マドラスの 踏みしめて 歩みゆく チェンナイ補習校	二. 真つ赤な太陽 みんな元気に 共に学ぼう ああ我等が	両手にうけて たくましく 南の国で チェンナイ補習校	一. 大空高く みんな仲良く ヤシの葉茂る ああ我等が	青い海 すこやかに 学びの庭よ チェンナイ補習校	校 歌	作詞 会沢俊夫 作曲 保護者会
---	------------------------------------	--	-------------------------------------	---	-----------------------------------	--------	--------------------

## 学 校 沿 革 史

<昭和50年度 (1975)>

4月補習校設立の気運。6月マドラス日本語補習教室設立。週2回各家庭持ち回り授業。  
留学生講師1名。

<昭和51年度 (1976)>

9月新講師・留学生倉田氏。

<昭和52年度 (1977)>

<昭和53年度 (1978)>

4月倉田講師退任。新講師・留学生渡辺氏。

<昭和54年度 (1979)>〔児童数4名〕

4月ニューデリー日本人学校より10日間巡回指導。自民党文教委員、桜内代議士一行来訪。

<昭和55年度 (1980)>〔児童数9名〕

初代派遣教員・松永佳正校長。4月渡辺講師退任。5月 Admiralty Hotel 2部屋を校舎として使用。6月開校式。準全日制補習授業校発足。月～金 14:20～17:30、土曜 Special Class 実施。10月文部省・大沢事務官一行来校。12月シンガポール日本人学校より音楽集中指導。3月設備充実のため、在留法人8社より Rs.24,000 寄付（邦貨67万円）。

<昭和56年度 (1981)>〔児童数11名〕

4月海外日本人学校視察教育団一行来校。7月ボンベイ日本人学校・神田校長来校。8月外務省査察官一行来校。11月校舎移転。Mahindra Apartment 12月新校舎移転式典。3月卒業式。

<昭和57年度 (1982)>〔児童数3名〕

3月派松永校長帰任。（児童数5、6名になれば再派遣考慮）

<昭和58年度(1983)>〔児童・生徒数10名〕 ※派遣教員なし

4月土曜日・日曜日午前中開校。富永洋子先生採用。1月松下電器よりテレビビデオセット寄贈。

<昭和59年度 (1984)>〔児童・生徒数14名〕 ※派遣教員なし

5月中曾根首相・安倍外相来印。教員派遣陳情。6月再派遣条件の準全日制授業再開。（水・金 16:30～18:30 土・日 9:00～12:00）。7月ガードマン設置 10～11月インディラ・ガンディー首相暗殺事件、サイクロン襲来、州政府首相病気等で臨時休校重なる。

<昭和60年度 (1985)>〔児童・生徒数8名〕 ※創立10周年

2代派遣教員・播摩久夫校長〔東京都〕。4月準全日制週5日午前授業開始。7月市街デモ行進のため休校。9月市街地デモのため休校。2月胆石の手術で播摩校長一時帰国。3月富永洋子教諭退職。

<昭和61年度 (1986)>〔児童・生徒6名〕 ※学校運営委員会発足

4月播摩校長帰任。5月「海外子女教育」記事掲載。6月外務省・山田中正審議官来校。補助教員 Mrs.チャンドラ採用。10月クリアン玲子さん採用。文部省海外子女教育室中西治室長、小川照夫係長来校。3月補習授業校規則制定。

<昭和62年度 (1987)>〔児童・生徒7名〕

3代派遣教員・横山哲郎校長〔福岡県〕。4月校舎移転。11月マドラス市街デモ休校。12月マドラス市街デモ休校。MGR死去のため休校。

<昭和63年度 (1988)>〔児童・生徒6名〕

11月マドラス市街全面通行止めのため休校。靴工場見学。2月補習校校歌制定。

<平成元年度 (1989)>〔児童・生徒9名〕

6月幼稚園開園(幼児2名)。外務省査察団来校。田中先生採用。11月校内宿泊キャンプ。選挙により休校。1月海外子女作品コンクール学校賞受賞。餅つき大会。

<平成2年度 (1990)>〔児童・生徒6名〕

4代派遣教員・石井晃校長〔山梨県〕。6月幼稚園部開園(土曜午前授業)。10月ストライキにより休校。2月暴動発生懸念により臨時休校。

<平成3年度 (1991)>〔児童・生徒3名〕

6月インド選挙後情勢不安臨時休校。11月台風接近により臨時休校。2月暴動発生懸念により臨時休校。

<平成4年度 (1992)>〔児童・生徒16名〕

8月松本深雪さん採用。1月書初大会。2月日本人会運動会に参加。ソフトボール大会に参加。

<平成5年度 (1993)>〔児童・生徒14名〕

5代派遣教員・首藤賢司校長〔福岡県〕11月海外子女教育課課長補佐・細江保司氏来校。1月クリアン玲子先生復職。

<平成6年度 (1994)>〔児童・生徒15名〕 ※チェーンナイアメリカンスクール開校

4月日本人学校設立要望書を政府提出。

<平成7年度 (1995)>

6月長谷川稔さん採用。7月高山あつ子さん採用。1月創立20周年記念行事。

<平成8年度 (1996)>〔児童・生徒9名〕

6代派遣教員・都築淳郎校長〔埼玉県〕。8月オリンピック集会。10月大雨のため臨時休校。12月政府高官死去のため臨時休校。2月豆まき会。写生会。

<平成9年度 (1997)>〔児童・生徒12名〕

9月「海外子女教育」記事掲載。11月大雨休校。3月卒業遠足。

<平成10年度 (1998)>〔児童・生徒16名〕

4月チェーンナイ日本語補習校に校名変更。中学部設置。クリアン玲子さん採用。

<平成11年度 (1999)>〔児童・生徒20名〕

7代派遣教員・棚橋幸治校長〔岐阜県〕。4月新井富美子さん採用。7月シーソー設置。在外公館・高田課長学校視察。9月総選挙のため終業式を一日繰上げ。外務省視察団来校。10月大雨休校。2月校舎移転。〔6/1 Venus Colony II Street, Alwarpet〕

<平成12年度 (2000)>〔児童・生徒17名〕

4月準全日制(火～金の午後と土曜午前授業)5～6月夏季休業。6月高山あつ子さん退任。外務省人事課海外子女教育相談室長来校

<平成13年度 (2001)>〔児童・生徒17名〕

4月準全日制(火～金の午後と土曜午前授業)5～6月夏季休業。

<平成14年度 (2002)>〔児童・生徒11名〕

8代派遣教員・吉崎安浩校長〔神奈川県〕。6月印パ緊張。派遣教員一時帰国。文部科学省内に連

絡室を設置し連絡調整にあたる。10月写生会（総領事館）ゼネスト休校。11月大雨休校。海外

<平成14年度（2002）>〔児童・生徒11名〕

8代派遣教員・吉崎安浩校長〔神奈川県〕。6月印パ緊張。派遣教員一時帰国。文部科学省内に連絡室を設置し連絡調整にあたる。10月写生会（総領事館）ゼネスト休校。11月大雨休校。海外子女教育振興財団根道氏視察。3月遠足・三菱商事エビ加工工場。補習校HP開設。クリアン玲子さん退任。

<平成15年度（2003）>〔児童7名・生徒4名 計11名〕

4月学校運営委員長・立川正博氏。7月タラマニ地区に完成したアメリカンインタースクール内教室に移転。3月卒業式（中学部3名、小学部1名）。

<平成16年度（2004）>〔児童5名・生徒1名 計6名〕 ※アメスク創立10周年

4月学校運営委員長・飯田博己氏。中村早苗さん採用。3月16日教育信託団体証書登録「チェンナイ補習授業校（Japanese School Educational Trust of Chennai）」名に変更。

<平成17年度（2005）>〔児童13名〕

9代派遣教員・野辺鉄也校長〔千葉県〕。4月学校運営委員長・吉田茂氏。16日、入学式（小学部1名）5月総領事館見学。8月PTA総会。10月30日創立30周年記念式典開催。11月大雨のため休校。1月書き初め大会。3月6日ポプラ社取材。18日卒業式（小学部1名）。

<平成18年度（2006）>〔児童11名〕

4月学校運営委員長・波多野敦氏。2日入学式（小学部1名・中学部1名）。5月7日PTA総会。10日知事選挙結果発表に伴い、暴動発生の恐れのため第1期終業式。7月10日アメスク校舎増築工事のため、「赤坂」を借りて第2期スタート。8月8日「赤坂」での授業終了。9日アメスクでの授業再開。9月1日第2期終業式。11日第3期始業式。11月22日アメスク主催ターキーロットに全員参加。12月15日第3期終業式。1月9日第4期始業式。書き初め大会。3月10日乾電池作り教室。24日卒業式。新井富美子氏退任。

<平成19年度（2007）>〔児童12名〕

4月学校運営委員長・波多野敦氏。小林憲枝さん採用。7日入学式（小学部1名）。5月6日授業参観及びPTA総会。11日シン首相のチェンナイ訪問により、警備上アメスク前の道路が封鎖されるため臨時休校（第1期の終業式なし）。7月2日アメスク工事のため「赤坂」を借りて第2期スタート。8月3日「赤坂」での授業終了。6日アメスクでの授業再開。24日第2期末PTA。31日第2期終業式。9月10日第3期始業式。22日コマツ工場見学（文化委員会主催）。11月20日アメスク主催ターキーロットに全員参加。1月8日第4期始業式。書き初め大会。2月1日節分。2日日本人会運動会。21日っぽん丸見学。29日学年末PTA。3月8日乾電池作り教室実施。14日修了式。15日卒業式（小学部3名）。卒業祝賀会&お別れ会。

<平成20年度（2008）>〔児童8名・生徒3名 計11名〕

4月学校運営委員長・南収氏。6日入学式（小学部2名・中学部2名）。5月18日授業参観及びPTA総会。7月アメリカンスクール内で、職員室・図書室の移動。14日第2期始業式。8月1日日食観察会。14日PTA懇談会。23日新体力テスト。9月2日第3期始業式。11月5日味覚教室。25日アメスク主催ターキーロット参加。12月12日お別れ会。1月5日第4期始業式。書初大会。2月スポーツ大会。3月13日修了式。

<平成21年度（2009）>〔児童15名・生徒5名 計20名〕

10代派遣教員・野本純一校長〔新潟県〕。4月学校運営委員長・秋山隆之氏。18日入学式（小学部3名・中学部1名）。5月10日授業参観及びPTA総会。6月29日第2期始業式。8月21日学習参観・PTA懇談会、22日新体力テスト。9月1日第3期始業式、16日女子バスケ

ットボール女子日本代表チームとの交流会。10月10日社会科見学(クボタ・インディア工場)。12月6日学習発表会(日本人会忘年会)「シンドバッドのぼうけん」発表。1月4日第4期始業式。8日書き初め会。2月7日日本人会運動会参加。18日ふじ丸見学(商船三井・領事館の協力により)。3月5日学習参観・PTA懇談会。12日今沢カゲロウ氏(ベース忍者)コンサート。19日修了式。21日卒業式。

<平成22年度(2010)>〔児童23名・生徒9名 計32名〕

4月学校運営委員長・古市充氏。鈴木香里さん採用。11日入学式(小学部4名・中学部2名)。5月9日学習参観・PTA総会。8月13日学習参観・PTA懇談会。9月1日第2期始業式。10月30日社会科見学(ルノー日産インディア工場)。12月5日学習発表会(日本人会忘年会)「赤い花白い花、コックのポルカ、世界が一つになるまで」発表。18日NHK地球ラジオ「ほくたちわたしたち元気だよ」出演。1月10日第3期始業式。17日書き初め会。2月13日日本人会運動会参加。3月5日学習参観・PTA懇談会。18日修了式。19日卒業式。鈴木香里さん退任。

<平成23年度(2011)>〔児童31名・生徒6名 計37名〕

11代派遣教員・土井英正校長〔シニア・兵庫県〕。4月学校運営委員長・谷口健一氏。江本美也子さん採用。15日臨時保護者会。17日入学式(小学部3名・中学部1名)。5月8日学習参観・PTA総会。23日臨時保護者会。6月3日代表者交流会(保護者サポートについて)。アメスク・バリー理事長(10年間在任)米国帰国。8月フーバー新理事長着任。教室入替。12日学習参観・保護者懇談会。20日新体カテスト。25日中野正則総領事とフーバー理事長が会談。9月17日外務省在外公館課福島功一行視察。18日日本人会ソフトボール大会。11月6日ソフトバレーボール大会。7日滝澤州理事(海外子女教育財団)学校訪問。9日ボンベイ日本人学校(児童生徒11名引率教師3名)学校間交流。12日コベルコ工場(アンドラ)社会科見学。12月4日学習発表会(日本人会忘年会)アジアホテル。6日文科省国際課首藤弘明係長学校訪問。1月14日書初会。2月1日新入生保護者説明会。進路指導先輩講演会(大角光司氏・山城章氏)。12日日本人会運動会。14日世界青年の船寄港。17日山本新治氏(三菱商事)教育相談会。3月4日学習参観・保護者懇談会。11日卒業式。16日修了式。18日日印国交樹立60周年親善サッカー大会。

<平成24年度(2012)>〔児童39名・生徒6名 計45名〕

4月学校運営委員長・入江茂雄氏。伴野みづほ先生、小川祐三先生採用。8日入学式(小学部8名、中学部3名)。14日臨時保護者会。5月4日子どもの日のつどい。13日授業参観・PTA総会。8月7日七夕集会。20日体カテスト。9月11日ソフトボール大会。22日新体カテスト。11月6日ソフトバレーボール大会。12月4日学習発表会(日本人会忘年会)、アジアホテルで。1月13日2分の1成人式。書き初め会。2月2日土曜教室(節分行事)。4日先輩と語る会(田村真由香さん)。17日日本人会運動会。3月4日授業参観・保護者懇談会。15日修了式。17日卒業式。土井校長帰任。中村早苗さん退任。

<平成25年度(2013)>〔児童61名・生徒14名 計75名〕

12代派遣教員・末永和彦校長〔シニア・埼玉県〕。4月学校運営委員長・光常祐樹氏。鈴木優先生、徳丸知都香先生採用。7日平成25年度始業式・入学式(小学部6名・中学部5名)。18日教育信託団体証書登録「チェンナイ補習授業校(Japanese School Educational Trust of Chennai)」の再登録。5月5日授業参観・懇談会、PTA総会。25日土曜学級①(チャレンジランキング)。8月7日休校(大統領訪問による渋滞のため)8日七夕集会。24日土曜参観・懇談会。25日ドッジボール大会(日本人会)。26日~30日静岡大学教育学部杉崎准教授実践授業①。9月7日新体カテスト。21日土曜学級②(父親学級=土曜授業体験)。10月19日社会科見学(ルノー日産工場)11月16日授業参観・懇談会。23日光常運営委員長帰国に伴い入江運営委員長就任。12月5日天皇陛下・皇后陛下チェンナイ訪問。8日学習発表会(日本人会忘

年会)、チョーラホテルで。1月11日2分の1成人式。書き初め会。2月1日土曜学級③(父親学級=節分会、ドッジボール大会)。16日日本人会運動会参加。3月2日~6日静岡大学教育学部杉崎准教授実践授業②。14日修了式・離任式。16日卒業式(小学部9名・中学部5名)。伴野みつほ先生・小川祐三先生・傳隆司さん退任。

#### <平成26年度 (2014)>〔児童75名・生徒18名 計93名〕

4月学校運営委員長・石塚新也氏。小川達夫先生、松浦勝先生、伊藤純代先生、中津畑桜先生採用。6日着任式・始業式・入学式(小学部9名・中学部7名)。中学部土曜日補習授業開始。24日臨時休校(選挙投票日のため)5月3日授業参観・懇談会・PTA総会。8月9日~14日静岡大学教育学部杉崎准教授実践授業③。23日臨時PTA総会(規約改定等)。25日~30日学校公開週間。9月8日補習校教育説明会。13日新体力テスト(日本人会体育委員会協力)。20日~11月8日ボランティア講師授業(中学部、数学・理科)。27日休校(州首相裁判判決に係る暴動予測のため)。10月1日前期終業式。6日後期始業式。7日緊急下校(2校時、15分短縮授業、裁判判決に関わる不穏な情勢のため)。18日休校(大雨による交通障害予測のため)11月4日海外子女教育振興財団・中村雅治理事長訪問。6日ムンバイ日本人学校・根本校長以下教師4名、児童生徒14名の訪問交流。8日父親学級①「社会科見学事前授業・電気のはなし」。15日社会科見学(小4~中3)、東芝JSW社。12月7日学習発表会(日本人会忘年会)タージコロマンデルホテル1月17日2分の1成人式。書き初め会。2月7日校章制定。父親学級②(小学部)。節分会。社会科・図工科授業。8日創立40年記念祝賀会(パークハイヤットホテル)。15日日本人会運動会参加。28日授業参観・懇談会。3月13日小学部修了式。14日中学部修了式。離任式。15日卒業式(小学部10名・中学部4名)。末永校長帰任。鈴木優先生、徳丸知都香先生、伊藤純代先生退任。

#### <平成27年度 (2015)>〔児童68名・生徒20名 計88名〕

13代派遣教員・吉川容司校長〔シニア・千葉県〕。4月学校運営委員長・平野智彦氏。高橋理先生、安永孝子先生、清水太朗先生採用。12日着任式・始業式・入学式(小学部8名・中学部8名)。5月2日授業参観・懇談会、30日PTA総会。8月7日七夕集会。23日ドッジボール大会(日本人会)。9月5日新体力テスト。10月17日授業参観・懇談会。11月16日大雨により小学部休校。29日学習発表会(日本人会忘年会)。12月1・3・4・7日大雨により小学部休校。5日大雨により社会科見学延期。1月30日社会科見学(ヤマハ発動機工場見学)2月豆まき集会。14日日本人会運動会参加。27日2分の1成人式・懇談会。3月20日卒業式(小学部10名、中学部5名)。小川達夫先生、中津畑桜先生退任。

#### <平成28年度 (2016)>〔児童58名・生徒21名 計79名〕

4月学校運営委員長・豊永博英氏。清水愛先生、安達愛先生採用。3日着任式・始業式・入学式(小学部10名・中学部7名)。23日授業参観・懇談会・PTA総会。5月16日臨時休校(州議会選挙の投票日のため)。18日雨のため小学部休校。6月3日~8日(5日間)中学部夏期特別授業。8月8日七夕集会。21日ドッジボール大会(日本人会)。27日新体力テスト。30日雨のため臨時休校。10月13~15日学校公開日。11月9日旧高額紙幣の使用不可に。12月3日父親学級、社会科見学事前授業(いすゞ自動車)。4日学習発表会(日本人会忘年会)。6日~8日州首相死去に伴い休校。12~14日サイクロン襲来のため休校。1月10日~14日書初週間。17日元州首相ラマチャンドラ氏生誕百周年のため祝日。23日牛追い行事禁止判決に対する講義運動が起こったため、臨時休校。2月3日豆まき集会。4日授業参観。12日日本人会運動会参加。3月12日卒業式(小学部5名、中学部2名)。松浦勝先生、高橋理先生、安永孝子先生、清水太朗先生退任。



<平成29年度 (2017)>〔児童48名・生徒15名 計63名〕

4月学校運営委員長・浦本大氏。芝田進先生、芝田幸子先生、箱崎作次先生、箱崎陽子先生採用。2日着任式・始業式・入学式(小学部9名・中学部2名)。22日授業参観・PTA総会。1日～3日7月31日、8月7日～9日(計7日間)中学部夏期特別授業。11日七夕集会。26日新体力テスト。10月芝田進先生、芝田幸子先生退任。3月18日卒業式。吉川容司校先生、天野愛先生退任。

<平成30年度 (2018)>〔児童53名・生徒10名 計63名〕

4月：14代派遣教員・吉本卓校長〔シニア・大阪府〕。学校運営委員長・永利拓也氏。園部純三先生、渡部潤一先生、梅沢せなみ先生着任。8日着任式・始業式・入学式(小学部6名・中学部5名)。21日授業参観・保護者総会。6月1日、7月31日、8月1日～8日(計9日間)中学部夏期特別授業。18日授業参観。9月：1日新体力テスト。10月：17日小学部避難訓練。18日巡回歯科健診・健康相談。11月：10日中学部避難訓練。社会科見学(コベルコ建機)。12月：1日補習授業校発表会。7日保護者説明会。永利拓也 学校運営委員長が異動により解職、加藤 顕 学校運営副委員長が代行。1月：17日～書初め週間。27日 本校初めての英語検定を実施(受験者数：51名)2月：1日豆つかみ集会。10日運動会実施。3月：22日小学部修了式・23日中学部修了式。24日卒業式。箱崎 作次 先生・箱崎 陽子 先生退任。

<令和元年度 (2019)>〔児童46名・生徒9名 計55名〕

4月：上田 隆行 学校運営委員長就任。平井 茂孝 先生・池田 堯 先生 着任。7日 着任式・始業式・入学式(小学部7名・中学部2名)。17日 小学部避難訓練。20日 中学部避難訓練。27日 授業参観・保護者説明会。5月：3日 こいのぼり集会。4日～18日 個人面談。6月：2日 第一回英検を実施。(受験者数：18名)AISCと校舎借用に関わる課題解消に向けた協議を開始。7月：31日・8月5日～8日 中学部夏期特別授業。17日 授業参観。31日 新体力テスト。9月：1日 新体力テスト。7日 父級学級(ポップアップカード作り)。11日 自衛隊艦船「あさぎり」を見学。12日 小学部避難訓練。14日 中学部避難訓練。21日 社会科見学(日産自動車工場)。26日 AISCと本校との当該校舎利用に関わる契約関係について、第1回保護者説明会を実施。10月：8日 後期始業式。15日 巡回歯科健診・健康相談。21日～ 個人面談。12月：1日 学習発表会を実施。21日 後期前半終了。1月：13日 後期後半開始。16日～書初め週間。26日 第三回英語検定をHoliday Innで実施(受験者数：33名)。31日 豆つかみ集会。2月：1日 授業参観。5日 新入生保護者説明会。8日 AISC 校舎利用に関わる契約について、第2回保護者説明会を実施。AISCに属さない保護者に計4回の説明会を実施。23日 運動会。3月：8日 卒業式。13日 小学部修了式。14日 中学部修了式。園部 純三 先生・渡部 潤一 先生退任。24日より新型コロナ禍の対策として、チェンナイ市内がロックダウンされる。

<令和2年度 (2020)>〔児童56名・生徒11名 計67名〕

4月：中村 佳史 学校運営委員長就任。中野 旬史 先生・中村 健太 先生・向井 小町 先生 採用。15日 学校運営委員からの要請により、ANA 臨時便で吉本校長と教員4名(安達先生・梅沢先生・平井先生・池田先生)が、緊急避難による一時帰国。20日「お子様の学習状況調査」を実施。26日オンライン学級懇談会(保護者・児童生徒)を開催し、オンライン授業の実施準備を行う。5月：9日 オンラインでのホームルームを実施。10日からオンラインによる学習支援を開始。6月：インター校のオンライン授業終了後の1日から、本校のオンライン授業を開始する。7月：13日夏季休業日(37日間短縮)。25日「オンライン授業についての状況調査」を実施。8月：10日～前期後半開始。「個に応じたオンライン学習」を推進。9月：30日 前期終了。10月：1日 後期開始。12月：梅沢 せなみ 先生退任。1月：12日 後期後半授業の開始。13日 安達 愛 先生の帰任。27日 吉本 卓 校長の帰任。2月：10日 中村 健太 先生の着任。3月：7日 卒業式・離任式。14日 修了式・離任式。平井 茂孝 先生・池田 堯 先生退任。24日 向井 小町 先生・今井 正先生の着任。29日 評議員会開催。

<令和3年度 (2021)>〔児童9名・生徒4名 計13名〕

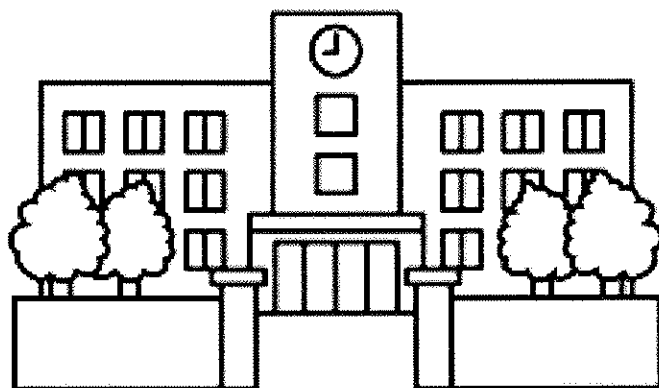
4月：大谷 悠介 学校運営委員長就任。11日 入学式・着任式(今井 正 先生)。  
12日 前期始業式・着任式。13日 オンラインでの授業開始。6月：4日小学部前期前半終了  
5日 中学部前期前半終了。7月：31日 前期後半開始(オンライン授業)  
9月：24日 小学部・中学部前期終業式 10月：1日 後期開始(オンライン授業)12月：31  
日 :安達 愛先生・向井 小町先生退任。1月：1日山口 由希先生・午来 清文先生着任 2月  
1日 対面授業開始 3月：6日 卒業式 11日終業式・離任式 吉本 卓校長退任  
中野 旬史 先生・中村 健太 先生退任

<令和4年度 (2022)>〔児童15名・生徒6名 計21名〕

4月：11日 15代派遣教員・佐藤 益弘 校長〔シニア・埼玉県〕着任。萩原 圭介 学校運営  
委員長就任。9日・11日始業式・対面授業実施 24日小学部2名中学部2名対面による入学  
式 5月：5日 こいのぼり集会 28日・30日避難訓練(不審者対応) 6月：4日前期前半終了  
7月：26～中学部夏期授業 8月：2日前期後半授業開始 専任講師 梶野弘毅先生着任 時間  
割変更 11日～授業参観 24日～新体力テスト 9月 18日 避難訓練(地震・津波) 10月  
17日～ 個人面談・3者面談 11月4日 専任講師 山口由希先生退任 7日 専任講師 竹  
村 和哲先生着任 24日 ピアニスト楠木由希子さんコンサート鑑賞 12月 2日 学習発  
表会(BBT ホール) 1月 17日～授業参観懇談会 2月 19日 日本人会合同運動(AISC グ  
ランド) 3月 5日 卒業式(小学部6名中学部1名)マドラスホール 10日 11日(小・中修了  
式) 専任講師 竹村和哲先生退任

<令和5年度 (2023)>〔児童44名・生徒10名 計54名〕

4月 1日 萩原 圭介 学校運営委員長継続 専任講師 樋口真理先生 津浦和幸先生着任  
8日 中学部始業式 9日 小学部始業式・着任式・小・中学部入学式(マドラスホール) 18～  
授業参観・懇談会 5月 5日こいのぼり集会 MC11 8日 個人面談・3者面談 30日避難  
訓練(不審者対応) 6月 2・3日前期前半終了 7月 27・28・29日 中学部夏期講習 8月  
2日 前期後半授業開始 11日 授業参観・懇談会 23日～新体力テスト 12日 避難訓練  
(地震・津波) 23日全校社会科見学 29・30日前期後半終業式



## II 学校の概要 (定款)

### 1. 学校名：チェンナイ補習授業校（準全日制補習校）

#### 【事務所】

"POLYHOSE TOWERS" Western Wing, 8<sup>th</sup> Floor, Office A,86, Anna Salai, Guindy, Chennai-600 032

#### 【活動場所】

Inside American International School Chennai, 100 Feet Road, Taramani, Chennai 600113 INDIA

【連絡先】 Tel : 0091-44-2254-2912 e-mail : jsetoc@jschennai.org.in

学校ホームページ : www.jschoolchennai.com

### 2. 運営母体：Japanese School Educational Trust of Chennai（代表取締役：平野 豪）

補助団体：チェンナイ日本人会（会長：八木橋 厚太）

### 3. 入学金・授業料（令和5年度）

入学金 小学部 Rs. 20,000 中学部 Rs. 20,000

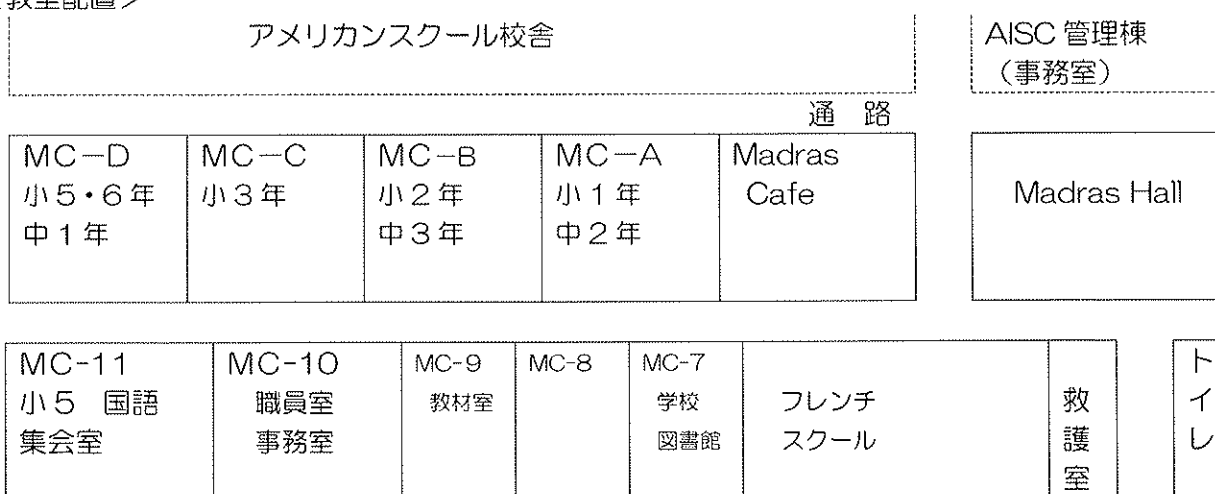
授業料 小学部 Rs. 20,000 中学部 Rs. 20,000（それぞれ月額）

※平成30年度より、入学金・授業料にGST18%賦課されることになる。

### 4. 施設・設備

契約者 (事務所)	貸主：American International School Chennai 借主：Japanese School Educational Trust of Chennai
契約期間	契約期間：令和4年12月14日より年次更新
契約者 (活動場所)	貸主：American International School Chennai 借主：Japanese School Educational Trust of Chennai
契約期間	契約期間：令和4年12月14日より年次更新
活動場所	現在の建物 [American International School] に移転して17年目。
室数	教室＝6, 職員室（事務室・教具室）＝1, 学校図書館＝1

#### <教室配置>



【教室面積】 MC-A~D=45m<sup>2</sup>、MC-7=33m<sup>2</sup>、MC-9=33m<sup>2</sup>、MC-10・11=65m<sup>2</sup>

※在籍人数や授業体制により、教室を変更することがあります。

### Ⅲ 学校運営について

#### 1. 本校設置の目的

本校は、チェンナイ及びその近郊に在住する日本人子女に対して、現地校の教育で補うことができない日本人として必要な教育を、文部科学省の示す学習指導要領を指針として行うことを目的とし、チェンナイ日本人会により設立されたものである。2013年3月、非営利目的教育団体としてタミルナド州政府より認可取得し法人化し独立運営を行っている。

#### 2. 教育の目的

本校は、日本の教育関係法規の精神に沿い、児童・生徒の知的・精神的・情操的な発達による人格の形成を目指すと共に、世界の平和と国際理解、親善促進のための正しい認識を培う教育実践を目的としている。

#### 3. 評議員会

学校運営の重要事項の処理について、必要に応じ審議を行う。

役 職	氏 名	勤 務 先
代表取締役	平野 豪	三菱商事
取 締 役	欠員	
評議委員	宮田 賢治	在チェンナイ日本国総領事館
評議委員	八木橋厚太	チェンナイ日本人会（会長）
評議委員	伊藤 輝	チェンナイ日本商工会（会長）

#### 4. 学校運営委員会

運営は学校運営委員会が行い、チェンナイ日本人会から学校運営委員長を派遣する。学校運営委員会にて、学校規則に基づき、学校の運営に関する一切の事項を審議し執行する。また、同委員会は、その他必要と認める学校運営に関する事項については、評議員会に報告し、協議するものとする。学校運営委員会は次により選出し、学校運営委員会を構成する。

- 日本人理事会より 1名以上 （学校運営委員長の任に当たる）
- 日本人会に所属する法人より 複数名 （学校運営委員として）
- 総領事館代表 1名以上 （オブザーバーとして）

職 務	氏 名	勤 務 先
学校運営委員長	萩原 圭介	東京海上
学校運営副委員長	大谷 優進	Flyjac Logistics
学校運営委員（会計担当）	山崎 勇児	RNTBCI
学校運営委員（会計担当）	菱田 勝仁	Sinto Bharat
学校運営委員（アメスク担当）	近藤 啓介	三菱商事
学校運営委員（教職員担当）	矢嶋 俊平	日産自動車
学校運営委員（採用担当）	美濃部 克史	神戸製鋼所
学校運営委員（校長）	佐藤 益弘	チェンナイ補習授業校
オブザーバー	松永 秋夫	在チェンナイ日本国総領事館

## 5. 教職員

役 職	氏 名	職 務	備 考
校 長	佐藤 益弘	学校経営	令和4年度 文部科学省派遣教員
専任講師	梅野 弘毅	小1・中2担任	令和4年度採用 専任教員
専任講師	津浦 和幸	小2・中1担任	令和5年度採用 専任教員
専任講師	今井 正	小3・中副担任	令和3年度採用 専任教員
専任講師	樋口 真理	小4・中3担任	令和5年度採用 専任教員
専任講師	午来 清文	小5,6担任中副担任	令和3年度採用 専任教員
事 務 員	S.Kannan (カンナン)	学校事務	平成24年度採用
運転手兼事務補助	S.Valsalan (バルサラ)	運転・事務補助	平成26年度採用
運転手兼事務補助	AL.Muri uthu(マリムトウ)	運転・事務補助	令和4年度採用

## IV 学校経営計画

### 1. 本校の教育目標

- 『 確かな学びと国際感覚豊かな子どもの育成 』  
 ～ 生きる力を育み 地球を舞台にはばたく子の育成 ～  
 (1) 基礎・基本の学力の定着  
 (2) 国際社会に生きる感性豊かな心の育成  
 (3) 健康で心身ともにたくましい子の育成

### 2. 学校経営の基本方針

- (1) 日本帰国を見据えた基礎学力の維持・定着。【「わかる・できる」のある楽しい授業】  
 国語、算数・数学を中心とした基礎基本的な知識・技能を身に付けさせる。思考力・判断力・表現力を高めるための授業の改善を図る。「自力解決学習」の定着を目指す。
- (2) 「生きる力」をグローバルな視点で考えさせる。【アイデンティティの確立】  
 日本人としての誇りをもち、礼儀正しく、世界に通用する国際感覚をもった児童・生徒の育成をめざす。
- (3) 「日本式の教育方法で学ぶ」日本では当たり前なことを、当たり前でできる子の育成。  
 正しい姿勢、返事やあいさつ、聞く態度など日本の学校生活や授業で必要最低限なことの定着を目指し指導の徹底を図る。
- (4) 児童生徒の自主性・自立性をもたせ、その伸長を図る。【「自己表現力」を育てる教育活動】  
 学級活動や諸行事へ積極的に関わることを通して、他者から認められることの喜びや自分たちで学校を動かしていく達成感を味わわせながら自己を生かす能力を養う。
- (5) たくましい「こころ」と「からだ」が育つ教育環境作りに努める。【日本人会・家庭・学校運営委員会との連携】学校だけでなく、家庭や日本人会など、ここチェンナイでの多くの人々との関わりの中で学ぶ「人の優しさ」から、相手を思いやる優しい心ときまりを守る強い心の醸成。

### 3. 本年度の指導の重点

- (1) 学習面・生活面ともに、『基礎・基本』の徹底に努める。  
 (2) 常に自ら考え、行動することを意識化する。そして、それが学習面では学ぶ喜びにつながるように、また生活面では自分の身は自分で守ることにつながっていくようにさせる。

#### 4. 教科指導の重点（「基礎・基本」の習得）

##### 【国語】

言語事項（漢字・語彙）、読み、作文の指導に重点を置き、正しい日本語を使って適切に表現できる力を伸ばす。

##### 【算数・数学】

数量や図形に対しての基礎的な知識と技能、数学的な考え方の基礎を身に付ける。

##### 【社会・理科】

内容を精選し、インターネットなどの情報機器を活用しての調査活動や作業・実験を通し、基礎的・基本的な内容を知る。

##### 【生活】

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々や自然等に関心を持ち、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、生活において進んで行動する自立への基礎・基本を養う。

##### 【音楽】・【体育】

学校行事を通して、その教科の目標に迫る手だてをとり、体験することにより基礎的な内容を理解させる。

### V 教育課程

#### 1. 令和5年度授業日数及び課業期間

(1) 年間授業日数 小学部 169日（37週）・中学部 41日（37週）、計205日

(2) 授業日及び週授業単位時間

- 小学部：月～金の午後、1・2年：2単位時間×4日＝8単位時間（45分授業）
- 小学部：月～金の午後、3～6年：2単位時間×5日＝10単位時間（45分授業）
- 中学部：土曜日 6単位時間×1日＝6単位時間（50分授業）
- 総授業単位時間数＝小学部：342単位時間、中学部：208単位時間

(3) 各学期の授業日数と各休業期間

前期	4月 1日～10月 8日 (98日間)	春季休業	4月 1日～ 4月 7日
		夏季休業	6月 4日～ 8月 1日
		秋季休業	10月 1日～10月 8日
後期	10月 9日～3月31日 (107日間)	冬季休業	12月17日～ 1月 7日
		学年末休業	3月10日～ 3月31日

2. 時間割 ※オンライン授業は、弾力的運用で実施する。

	月		火		水		木		金	
	1校時	2校時	1校時	2校時	1校時	2校時	1校時	2校時	1校時	2校時
小1	国語	算数	算数	国語	/		国語	生活	算数	国語
小2	国語	算数	算数	国語	国語	生活	/		算数	国語
小3	算数	国語	算数	国語	国語	社会	国語	算数	算数	理科
小4	国語	算数	算数	国語	社会	国語	国語	算数	理科	算数
小5	国語	国語	算数	国語	理科	算数	算数	社会	算数	国語
小6	国語	国語		国語	算数	理科	社会	算数		国語
土曜日	1	2	3	4	5	6				
中1	国語	国語	数学	数学	社会	理科				
中2	社会	理科	国語	国語	数学	数学				
中3	数学	数学	社会	理科	国語	国語				

国語2 数学2 理科1 社会1 を6時間でローテーションする

【基本授業時数】

令和5年度は、教員5名体制で実施。小学部1・2年の授業日を週4日としている。

小学部1・2年（8時間）：国語4h・算数3h・生活1h年

小学部3～6年（10時間）：国語4h・算数4h・社会1h・理科1h

中学部（6時間）：国語2h・数学2h・社会1h・理科1h

3. 学年別・教科別授業時間数（標準授業時数）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
国語	123 (306)	121 (315)	121 (245)	131 (245)	132 (175)	128 (175)	66 (140)	66 (140)	63 (140)
算数 数学	92 (136)	92 (175)	116 (175)	130 (175)	132 (175)	128 (175)	67 (140)	67 (140)	63 (140)
社会			29 (70)	35 (90)	34 (100)	34 (105)	34 (105)	33 (105)	32 (140)
理科			29 (90)	35 (105)	34 (105)	34 (105)	34 (105)	33 (140)	32 (140)
生活	28 (102)	27 (105)							
行事等	10	10	10	10	10	10	10	10	10

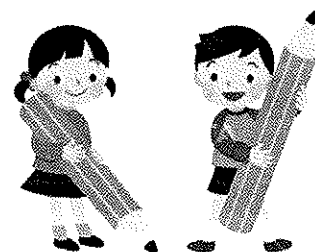
4. 時程

(1) 小学部（月～金）

始めの会	15:40 ~ 15:45
第1校時	15:45 ~ 16:30
休憩	16:30 ~ 16:40
第2校時	16:40 ~ 17:25
帰りの会	17:25 ~ 17:30

(2) 中学部（土曜日）

朝の会	8:55 ~ 9:00
第1校時	9:00 ~ 9:50
第2校時	10:00 ~ 10:50
第3校時	11:00 ~ 11:50
第4校時	12:00 ~ 12:50
昼食・休憩	12:50 ~ 13:40
第5校時	13:40 ~ 14:30
第6校時	14:40 ~ 15:30
帰りの会	15:30 ~ 15:40
下校	15:40







## VI 学校運営委員一覧(1986年度～)

### <昭和61年(1986年)度>

委員長	藤原 邦衛	住友商事	委員	中嶋 克比古	三井物産
委員	長雍 久	丸紅	委員	内田 政憲	三菱商事
委員	会沢 俊夫	日商岩井	経理	白川 五郎	松下電器
委員	浜田 武文	海外貨物検査	委員	播磨 久夫	補習授業校

### <昭和62年(1987年)度>

委員長	市川 良平	丸紅	委員	浜田 武文	海外貨物検査
委員	出口 光次	日商岩井	委員	木村 俊明	松下電器
委員	池野 (領事)	総領事館	監事	白川 五郎	松下電器
委員	宗宮 浩一郎	住友商事	監事	上野 雅敏	三井物産
委員	中嶋 克比古	三井物産	委員	横山 哲郎	補習授業校
委員	内田 政憲	三菱商事			

### <昭和63年(1988年)度>

委員長	栗原 建司	三菱商事	委員	鈴木 隆	総領事館
委員	大角 幸彦	丸紅	監事	市川 良平	丸紅
委員	会沢 俊夫	日商岩井	監事	上野 雅敏	三井物産
委員	西田 尚	インドナショナル	渉外	深瀬 涉	住友商事
委員	高橋 功二	三井物産	委員	横山 哲郎	補習授業校
委員	浜田 武文	海外貨物検査			

### <平成元年(1989年)度>

委員長	近藤 令矢	住友商事	委員	則武 陽二	三井物産
委員	西田 尚	インドナショナル	委員	内田 政憲	三菱商事
委員	会沢 俊夫	日商岩井	委員	鈴木 隆	総領事館
委員	小篠 美知人	インドナショナル	監事	市川 良平	丸紅
委員	森 敦史	住友商事	監事	上野 雅敏	三井物産
委員	大角 幸彦	丸紅	委員	横山 哲郎	補習授業校

### <平成2年(1990年)度>

委員長	藤森 茂典	松下電器	委員	森 敦史	住友商事
委員	大角 幸彦	丸紅	委員	小篠 美知人	インドナショナル
委員	松下 幹彦	日商岩井	委員	鈴木 隆	総領事館
委員	中村 裕一	三井物産	監査	西田 尚	インドナショナル
委員	田中 芳郎	三井物産	委員	石井 晃	補習授業校

### <平成3年(1991年)度>

委員長	宮川 隆	丸紅	委員	楠 木克 昌	日商岩井
委員	森 敦史	住友商事	委員	米 川信 修	松下電器
委員	則武 陽二	三井物産	委員	河 野好 行	総領事館
委員	中西 敏明	三菱商事	監査	小 篠美知人	松下電器
委員	西橋 時男	丸紅	委員	石 井晃	補習授業校

<平成4年(1992年)度>

委員長	遠藤 鷹志郎	日商岩井	委員	栗生沢 実	三井物産
委員	森敦 史	住友商事	委員	内田 治男	インドナショナル
委員	武藤 修司	三国工業	委員	河野 好行	総領事館
委員	中西 敏明	三菱商事	監査	小篠 美知人	松下電器
委員	西橋 時男	丸紅	委員	石井 晃	補習授業校
委員	楠木 克昌	日商岩井			

<平成5年(1993年)度>

委員長	栗生沢 実	三井物産	委員	田口 眞人	三菱商事
委員	西橋 時男	丸紅	委員	内田 治男	インドナショナル
委員	柳 浩輔	日商岩井	委員	今井 豊司	総領事館
委員	山口 浩	住友商事	委員	首藤 賢司	補習授業校

<平成6年(1994年)度>

委員長	松倉 達文	丸紅	委員	岩橋 秀樹	三井物産
委員	小野寺兼一郎	ハッピーワールド	委員	河野 拓司	インドナショナル
委員	柳 浩輔	日商岩井	委員	今井 豊司	総領事館
委員	山口 浩	住友商事	委員	首藤 賢司	補習授業校
委員	田口 眞人	三菱商事			

<平成6年度 日本人学校設立準備委員会>

委員長	井口 順	住友商事	副委員長	山 本順	松下カーボン
副委員長	田口 眞人	三菱商事	委員	栗生沢実	三井物産
委員	山口 浩	住友商事	委員	西橋 時男	丸紅
委員	柳 浩輔	日商岩井	委員	内田 治男	インドナショナル
委員	河野 拓司	インドナショナル	委員	落合 俊哉	三国工業
委員	犬竹 太	森村商事	顧問	松倉 達文	丸紅
顧問	今井 豊司	総領事館	委員	首藤 賢司	補習授業校

<平成7年(1995年)度>

委員長	井口順	住友商事	委員	河野 拓司	インドナショナル
委員	江 本健	中山商店	委員	錦織 章一	開成商事
委員	柳浩 輔	日商岩井	委員	藤本 岩夫	アジアクアカルチャー
委員	大久保貴 由	住友商事	委員	今井 豊司	総領事館
委員	岩 橋秀 樹	三井物産	委員	首藤 賢司	補習授業校

<平成8年(1996年)度>

委員長	宇佐美 栄男	住友商事	委員	藤本 岩夫	アジアクアカルチャー
委員	小野寺兼一郎	ハッピーワールド	委員	山口 浩	住友商事
委員	江本 健	中山商店	委員	木下 裕治	総領事館
委員	河野 拓司	インドナショナル	委員	都築 淳郎	補習授業校
委員	小川 隆	三菱商事			

<平成9年(1997年)度>

委員長	宇佐美 栄男	住友商事	委員	山崎 洋一	テルモ
委員	小野寺兼一郎	ハッピーワールド	委員	木下 裕治	総領事館
委員	江本 健	中山商店	委員	都築 淳郎	補習授業校
委員	小川 隆	三菱商事			

<平成10年(1998年)度>

委員長	駒沢 秀太郎	日商岩井	委員	山崎 洋一	テルモ
委員	江本 健	中山商店	委員	木下 裕治	総領事館
委員	平野 直人	小糸製作所	委員	都築 淳郎	補習授業校
委員	横井 裕明	三菱商事			

<平成11年(1999年)度>

委員長	内田 敬一郎	三菱商事	委員	武藤 隆	三井物産
委員	山崎 洋一	テルモ	委員	安部 昌伸	松下電池
委員	横井 裕明	三菱商事	委員	脇田 慶和	総領事館
委員	江本 健	中山商店	委員	木下 裕治	総領事館
委員	平野 直人	小糸製作所	委員	棚橋 幸治	補習授業校

<平成12年(2000年)度>

委員長	前川 誠二	松下電器	委員	武藤 隆	三井物産
委員	安部 昌伸	松下電池	委員	脇田 慶和	総領事館
委員	中村 政道	松下電器	委員	溝淵 幸治	総領事館
委員	横井 裕明	三菱商事	委員	棚橋 幸治	補習授業校

<平成13年(2001年)度>

委員長	福居 通彦	日商岩井	委員	波田野 彰士	テルモ
委員	安部 昌伸	松下電池	委員	脇田 慶和	総領事館
委員	土田 和徳	森村商事	委員	溝淵 幸治	総領事館
委員	増田 智行	三菱商事	委員	棚橋 幸治	補習授業校

<平成14年(2002年)度>

委員長	喜多村 隆志	三菱商事	委員	春名 利紀	住友商事
委員	安部 昌伸	松下電池	委員	溝淵 幸治	総領事館
委員	土田 和徳	森村商事	委員	大貫 雅雄	総領事館
委員	清水 雄一	東京三菱銀行	委員	吉崎 安浩	補習授業校

<平成15年(2003年)度>

委員長	立川 正博	松下エアコン	委員	金子 春仁	総領事館
委員	安部 昌伸	松下電池	委員	大貫 雅雄	総領事館
委員	清水 雄一	東京三菱銀行	委員	吉崎 安浩	補習授業校
委員	小菅 京子	ミライ・アパレル			

<平成16年(2004年)度>

委員長	飯田 博己	ミクニ	委員	金子 春仁	総領事館
委員	清水 雄一	東京三菱銀行	委員	吉崎 安浩	補習授業校
委員	田村 直美	インド味の素			

<平成17年(2005年)度>

委員長	吉田 茂	三菱商事	委員	藤間 準	ミクニ
委員	清水 雄一	三菱東京UFJ銀行	委員	金子 春仁	総領事館
委員	中尾 光延	三菱東京UFJ銀行	委員	野辺 鉄也	補習授業校

<平成18年(2006年)度>

委員長	波多野 敦	森村商事	委員	金子 春仁	総領事館(～2006.10)
委員	中尾 光延	三菱東京UFJ銀行	委員	鈴木 貞男	総領事館(2006.10～)
委員	S.S.チャダ	ミライアパレル	委員	野辺 鉄也	補習授業校

<平成19年(2007年)度>

委員長	波多野 敦	森村商事	委員	S.S.チャダ	ミライアパレル
委員	中尾 光延	三菱東京UFJ銀行	委員	鈴木 貞男	総領事館
委員	杉村 浩司	(株)阪急交通社	委員	野辺 鉄也	補習授業校

<平成20年(2008年)度>

委員長	南 收	三菱商事	委員	波多野 敦	森村商事
委員	中尾 光延	三菱東京UFJ銀行	委員	鈴木 貞男	総領事館
委員	杉村 浩司	(株)阪急交通社	委員	野辺 鉄也	補習授業校

<平成21年(2009年)度>

委員長	秋山 隆之	丸紅	委員	服部 純也	三菱ふそうトラック・バス
委員	姥ヶ崎 鉦之	森村商事	委員	鈴木 貞男	総領事館
委員	杉村 浩司	阪急交通社	委員	野本 純一	補習授業校
委員	貝沼 和彦	日産自動車			

<平成22年(2010年)度>

委員長	古市 充	日産自動車	委員	若宮 健治	日産自動車
副委員長	大塚 雅康	クボタ	委員	鈴木 貞男	総領事館
委員	田口 洋二	三菱商事	委員	野本 純一	補習授業校
委員	堀尾 洋司	双日			

<平成23年(2011年)度>

委員長	谷口 健一	日産自動車	委員	早間 純	コベルコ
副委員長	窪津 誠	クボタ	委員	滝沢 雅美	総領事館
委員	奥村 正志	日産自動車	委員	古市 充	日産自動車
委員	入江 茂雄	三菱商事	委員	土井 英正	補習授業校

<平成24年(2012年)度>

委員長	入江 茂雄	三菱商事	委員	村田 和也	日産自動車
副委員長	早間 純	コベルコ	委員	関谷 淳	日産自動車
委員	窪津 誠	クボタ	委員	高橋 毅	日産自動車
委員	光常 祐樹	三井物産	委員	滝沢 雅美	総領事館
委員	奥村 正志	日産自動車	委員	土井 英正	補習授業校
委員	鳥飼 高行	東芝電気			

<平成25年(2013年)度>

委員長	光常 祐樹	三井物産	委員	半澤 陽	日産自動車
副委員長	鳥飼 高行	東芝JSW	委員	村田 和也	日産自動車
委員	入江 茂雄	三菱商事	委員	長谷川 真巳	名港ロジスティクスインド
委員	奥村 功治	日産自動車	委員	滝沢 雅美	総領事館
委員	羽賀 史浩	日産自動車	委員	末永 和彦	補習授業校
委員	豊永 博英	豊田通商			

<平成26年(2014年)度>

委員長	石塚 新也	伊藤忠商事	委員	古川 卓也	三菱自動車
副委員長	羽賀 史浩	日産自動車	委員	長尾 勝昭	日本貿易振興機構
委員	奥村 功治	日産自動車	委員	岡井 重樹	日産自動車
委員	大澤 耕治	東京化成工業	委員	村尾 療	みずほ銀行
委員	名取 泰	日産自動車	委員	鈴木 優	補習授業校
委員	田代 謙	日産自動車	委員	徳丸 知都香	補習授業校

<平成27年(2015年)度>

委員長	平野 智彦	東京海上日動火災保険	委員	高田 英隆	フジテック
副委員長	村尾 療	みずほ銀行	委員	吉田 和昭	伊藤忠ビジネス
委員	岡井 重樹	日産自動車	委員	松岡 大司	ヤマハ発動機
委員	北川 嘉貞	日産自動車	委員	石坂 剛	NTTコミュニケーションズ
委員	長尾 勝昭	日本貿易振興機構	委員	向 晃芳	ナイファースト
委員	田代 謙	日産自動車	委員	谷口 英樹	キーエンス
委員	古川 卓也	BNPパリバ	委員	吉川 容司	補習授業校
委員	大澤 耕治	東京化成工業	委員	小川 達夫	補習授業校
委員	伊井 慎一郎	日産自動車			

<平成28年(2016年)度>

委員長	豊永 博英	豊田通商	委員	石坂 剛	NTTコミュニケーションズ
副委員長	西村 公宏	日産自動車	委員	谷口 英樹	キーエンス
委員	北川 嘉貞	日産自動車	委員	浦本 大	三菱商事
委員	田中 啓介	グローバル・ジャパン	委員	佐野 隆博	いすゞ自動車
委員	近藤 貴俊	ヤマハ発動機	委員	梨本 健	東京化成工業
委員	伊井 慎一郎	日産自動車	委員	番場 俊光	アルソック
委員	高田 英隆	フジテック	委員	吉川 容司	補習授業校

<平成29年(2017年)度>

委員長	浦本 大	三菱商事	委員	三輪 剛	日産自動車
副委員長	加藤 顕	クボタ	委員	永利 拓也	スリーポンド
委員	合田 潤	KPMG	委員	番場 俊光	アルソック
委員	田中 啓介	グローバル・ジャパン	委員	佐野 隆博	いすゞ自動車
委員	岡 利治	日産自動車	委員	高橋 大輔	ヤマハ発動機
委員	上田 浩人	三菱東京UFJ銀行	委員	吉川 容司	補習授業校
委員	相田 和賢	NTTコミュニケーションズ			

<平成30年(2018年)度>

委員長	永利 拓也	スリーポンド	委員	三輪 剛	日産自動車
副委員長	加藤 顕	クボタ	委員	田中 一圭	ブリヂストン
委員	合田 潤	KPMG	委員	藤澤 秀麿	東北特殊鋼
委員	岡 利治	日産自動車	委員	堤 之義	コベルコ建機
委員	木谷 信隆	みずほ銀行	委員	大西 信成	ヤマハ発動機
委員	上田 浩人	三菱東京UFJ銀行	委員	吉本 卓	補習授業校
委員	相田 和賢	NTTコミュニケーションズ			

<令和元年（2019年）度>

委員長	上田 隆行	東京海上	委員	寒川 創一郎	フジテック
副委員長	中村 公尚	日産自動車	委員	江藤 智仁	フジテック
委員	中村 佳史	inspiriSYS	委員	高田 泰祥	MI Steel Processing
委員	塩田 弘基	日産自動車	委員	中坊 貴亨	日産自動車
委員	松岡 宏英	三菱商事	委員	坂本 一哉	ヤマハ発動機
委員	堤 之義	コベルコ建機	委員	吉本 卓	補習授業校

<令和2年（2020年）度>

委員長	中村 佳史	inspiriSYS	委員	鈴木 努	日産自動車
副委員長	橋立 和彦	日産自動車	委員	大谷 悠介	エフ・シー・シー
委員	佐藤 将	日産自動車	委員	種田 慶	全日空
委員	萩原 圭介	東京海上	委員	栗田 賢二	全日空
委員	松岡 宏英	三菱商事	委員	木村 裕亮	ヤマハ発動機
委員	江藤 智仁	フジテック	委員	吉本 卓	補習授業校
委員	寒川 創一郎	フジテック			

<令和3年（2021年）度>

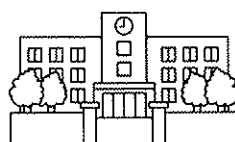
委員長	大谷 悠介	エフ・シー・シー	委員	松岡 宏英	三菱商事
副委員長	橋立 和彦	日産自動車	委員	江藤 智仁	フジテック
委員	佐藤 将	日産自動車	委員	寒川 創一郎	フジテック
委員	萩原 圭介	東京海上	委員	吉本 卓	補習授業校

<令和4年（2022年）度>

委員長	萩原 圭介	東京海上	委員	松岡 宏英	三菱商事
副委員長	中島 康夫	日産自動車	委員	江藤 智仁	フジテック
委員	山崎 勇児	日産自動車	委員	寒川 創一郎	フジテック
委員	大谷 優進	Flyjac Logistics	委員	佐藤 益弘	補習授業校

<令和5年（2023年）度>

委員長	萩原 圭介	東京海上	委員	近藤 啓介	三菱商事
副委員長	大谷 優進	Flyjac Logistics	委員	矢嶋 俊平	日産自動車
委員	山崎 勇児	日産自動車	委員	美濃部 克史	神戸製鋼所
委員	菱田 勝仁	Sinto Bharat	委員	佐藤 益弘	補習授業校



## VII 関係規則

### 1 チェンナイ補習授業校規則

#### 第1章 総則

##### 第1条 名称

この学校は、チェンナイ補習授業校（JAPANESE SCHOOL EDUCATIONAL TRUST OF CHENNAI）と言う。  
（以下、「学校」と称す）【平成 17 年 3 月、教育信託団証書登録】

##### 第2条 活動場所

学校を Inside the American International School Chennai, 100 Feet Road ,Taramani, Chennai 600113 に置く。

##### 第3条 設立の目的

この学校は、チェンナイおよびその近郊に在住する日本人子女等に対して、現地校の教育でおよばない日本人に必要な教育を文部科学省の示す学習指導要領を指針として行う。

##### 第4条 学校の教育目標

日本人として生きる誇りと自覚を育むために必要な、基本的素養を修得した上で、異なる文化・社会との協調を図ることのできる、真の国際感覚を持った児童生徒を育成する。

##### 第5条 学校の教育方針

この学校は、第4条の教育目標実現のため、次の各号に掲げる方針の達成に努める。

- (1) 日本語を正しく理解し、使用する能力を養う。
- (2) 人間相互の関係について正しく理解し、協同・自主及び自律の精神を養う。
- (3) 日本国の歴史・伝統及び現状について正しく理解する。
- (4) 国際協調の精神を理解する。
- (5) 数学的な思考力、応用力を養う。
- (6) 自然現象を科学的に観察し、理解・応用する能力を養う。
- (7) 生活を明るく豊かにする音楽、美術、文芸等についての基礎的な技能を養う。
- (8) 生活に必要な衣食住・産業に関する基礎的な知識と技能を養う。
- (9) 健康で安全な生活に必要な習慣を養い、心身の調和的発達を図る。

#### 第2章 運営並びに運営組織

##### 第6条 運営の責任

学校運営の最終責任は、JAPANESE SCHOOL EDUCATIONAL TRUST OF CHENNAI の代表取締役（以下、「代表取締役」という）、取締役 に 帰 属 する。

## 第7条 補習授業校評議員会

1. 補習授業校評議員会（以下、「評議員会」という）は、五名の評議員によって組織され、運営される。評議員は、代表取締役、取締役のほか、チェンナイ日本人会会長、チェンナイ日本商工会理事、在チェンナイ総領事館職員をもって構成される。
2. 評議員会は、学校運営の重要事項の処理につき、必要に応じ審議を行う。

## 第8条 学校運営委員会

1. 学校の運営にかかる業務は、代表取締役及び取締役が、学校運営委員会（以下、運営委員会という）に委託する。
2. 代表取締役は、各年度の初めに、チェンナイ日本人会会長に対して、運営委員長、及び、委員の推薦を依頼する。チェンナイ日本人会会長により推薦された委員長及び委員は、評議員会による審議を踏まえ、代表取締役及び取締役の総意のもと、代表取締役が任命する。
3. 運営委員長及び運営委員は、運営委員会を組織する。

## 第9条 運営委員会の職務

1. 運営委員会は次の職務を行う。
  - (1) 本規則の改正案策定
  - (2) 本規則に基づく細則の制定及びその改正案策定
  - (3) 教育方針及び校務報告の承認
  - (4) 当地において採用される教職員の任免に関する事項
  - (5) 学校の予算及び決算に関する事項
  - (6) 基金、寄付金及び借入金に関する事項
  - (7) 重要資産の取得、処分に関する事項
  - (8) その他、学校運営に関する重要事項
2. 運営委員会はその職務を遂行するにあたり、上記事項の処理等、必要に応じ評議員会の指導・承認を求める。
3. 運営委員長は日本国総領事館の協力を得て、運営委員会の業務を総括する。

## 第10条 運営委員会の開催、定数及び議事

1. 運営委員会は必要に応じて運営委員長が招集し、開催するものとする。ただし、委員の1/3以上からの要求があったときは、運営委員長は臨時会議を開催しなければならない。
2. 運営委員会は委員総数の2/3以上の出席をもって成立する。
3. 議決は出席委員の過半数により行う。
4. 運営委員会は必要に応じて、教員、監事、その他関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。



#### 第11条 運営委員会の任期

1. 委員の任期は1カ年とし、再任を妨げない。
2. 任期途中で就任した委員の任期は、前任者の残任期間とする。
3. 委員は任期満了後も後任者就任するまでは、その任務を行うものとする。

#### 第12条 運営委員会事務局

運営委員会事務局（以下「事務局」と称する）を学校に置き、学校長は事務局と協力して運営委員会に関する事務を処理する。

#### 第13条 運営委員会の構成

運営委員会に次の委員を置く。なお、下記各担当委員は運営委員会で各年度毎に選定する。

- (1) 委員長
- (2) 副委員長
- (3) 会計
- (4) その他必要に応じ、委員長からの委嘱事項担当

#### 第14条 学校長

学校に学校長を置く。学校長は、本規則及び運営委員会の決定に基づき、校務を掌握し、所属教職員を指導・監督する。また児童生徒の教育管理を行い、在校中の安全を確保する。政府派遣教員が派遣されている場合、派遣教員がこの職にあたる。

#### 第15条 会計監査

評議員会は毎年度末、監査人を選び、会計監査を委嘱する。監査人と評議員及び学校運営委員の兼任は認めない。

### 第3章 学校運営

#### 第16条 修業年限

この学校の修業年限は、初等6カ年、中等3カ年とする。

#### 第17条 入学資格

本校の入学資格は、原則として、チェンナイ在住の入学希望学年の学齢にあたる日本人子女等で、次の条件に該当する者とする。

- (1) 保護者が保護者の勤務する企業がチェンナイ日本人会の会員であること。
- (2) 日本における、学校や社会生活への適応を目的としている者
- (3) 本校が実施する面接その他の審査の結果、日本語が一定水準に達しており、当該学年における学習に支障がないと判断できる国語力などがあると認められ、かつ、教員の指示を守って学習する意欲がある児童生徒であること。

## 第18条 入学審査

1. 学校長は、入学希望者の就学に際して必要な面接及び個人調査票の確認等を実施し、入学の可否について運営委員会に報告する。
2. 入学が認められた保護者には、学校長が入学許可証を発行する。

## 第19条 教育課程

1. 学校長は本規則に基づき、現地の教育課程を勘案し、第3条及び第4条の達成に必要な教育課程の編成および学級編制、授業時間、学期、休業日、校務分掌等を運営委員会と協議の上、定める。
2. この学校の教育課程は、国語、算数（数学）を中心に、社会、理科、生活、及び、適宜それ以外の教科を加えて編成する。

## 第20条 授業料及び入学金

授業料および入学金は、各年度の初めに運営委員会が定め、評議員会に報告する。

## 第4章 財務

### 第21条 財政

この学校の財源は、国庫補助金、日本人会からの補助金、寄付金、児童・生徒の授業料等をもってこれに充てる。

### 第22条 会計年度

この学校の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終了する。

### 第23条 財務規定

この学校の財務は、別に定める。

## 第5章 教職員

### 第24条 教職員の職務

第14条に定める学校長のほか、学校に次の教職員を置く。

#### (1) 教員

児童生徒の教育をつかさどり、児童生徒の安全を確保し、校長の指導責任の下、校務事務を掌握する。教務主任は、学校長の監督を受け、教育計画の立案その他の教務に関する事項について連絡調整及び指導、助言に当たる。

#### (2) 事務員

校務に関わる事務及び雑務、運営委員会・学校長・教員・保護者のサポートを行う。

#### (3) 運転手

教職員の送迎並びに学校経営における雑務を行う。

## 第25条 用務技師

学校長は、運営委員会に相談の上、予算の範囲内で必要な用務技師を雇い入れることができる。

## 第6章 教職員服務規定

### 第26条 目的

1. 教職員は、学校設立の目的を理解し、自己の職分を誠実に遂行するとともに、互いに協力し、学校の発展に努力しなければならない。
2. 服務規程並びに教職員の福利厚生については、別に定める。

### 第27条 禁止行為

教職員は、次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 学校の名譽を毀損し、また利益を損ねること。
- (2) 児童生徒及びその家族に関し、校務上知り得た秘密（個人情報）を漏らすこと。
- (3) 学校長の許可なく校秘を漏らすこと。
- (4) 校務上必要である場合の他、みだりに学校の名前、自己の職名を使用すること。
- (5) 学校の秩序又は職場の規律をみだすこと。

### 第28条 休日

休日は、原則、アメリカンスクール休日（運営委員会の判断により柔軟に対応する）。ただし、学校長の指示で出勤させる場合がある。

### 第29条 年次有給休暇

1. 教職員の休暇は「年次休暇」及び「特別休暇」とする。
2. 年間10日（起算日4月1日）を限度として年次休暇を認める。
3. 年次休暇を受けようとする教職員はあらかじめその期間を定め、学校長の承認を求めなければならない。
4. 特別休暇は、VISAの更新、結婚、出産、交通機関の事故その他の特別の事由により、教職員が勤務しないことが相当である場合とし、その期間は学校長が必要と認める期間とする。
5. 派遣教員については文部科学省の規定に準ずる。

### 第30条 退職

1. 教職員が退職する場合、3ヶ月前に届出を学校長に提出し、運営委員会でその承認を得る。
2. 教職員が退職等を命じられたときは、すみやかに担当の事務および保管文書、物品を後任者または学校長の指示した者に引き継がねばならない。
3. 10年以上勤務した教職員が本校を去る場合は、退職金を支給する。その額については運営委員会が定め、評議員会に報告する。

### 第31条 報告の義務

学校長は、毎学期末に学校の運営についての総括を運営委員長に報告しなければならない。但し、その報告は、特に指示なき限り口頭をもって行うことができる。

### 第32条 勤務時間

1. 現地採用教員の勤務時間は月曜～金曜は午後2時から午後6時、土曜日は午前8時30分より午後3時30分までとする。但し、学校長の指示により指定勤務時間外での勤務を依頼する事もある。その場合、運営委員長の承認を得る事とする。
2. 年間計画に示されていない勤務を行う場合、学校長と教職員で事前協議をし、休業日の振替等の調整を行う。
3. 事務員等の就労規則は別に定める。

### 第33条 研修

1. 教員はその職責を遂行するため、絶えず研究と修養に努めなければならない。
2. 教員は授業に支障のない限り、学校長の承認を得て、勤務場所を離れて本務に資する研修を行うことができる。

### 第34条 懲戒

教職員が規則ならびに注意事項に違反した場合や児童・生徒への指導が著しく不足している場合等、学校長は注意指導を行う。運営委員長は学校長または運営委員の意見等を元に、教職員に対して訓告、免職等の懲戒を加える事ができる。運営委員長が、教職員に対して訓告、免職等の懲戒を加えた際には、評議員会に報告するものとする。

### 第35条 授業記録、学習記録

教員は個々の児童・生徒の学習状況等を記録し、学習計画の立案・修正、保護者との教育相談の資料とする。

### 第36条 日本人会との関係

教員は、本校が日本人会の協力により運営されていることに鑑み、日本人会に所属する。

## 第7章 規則改定

この規則の制改廃は、評議員会の審議を経て代表取締役及び取締役の承認をもって有効となる。

### 附 則

この規則は、昭和62年3月19日に制定する。

この規則は、平成26年9月16日に改正する。

この規則は、令和元年 8月18日に改正し、即日施行する。

## 2 チェンナイ補習授業校における安全対策

### 1. 目的

- (1) 不測の事態発生に備えて、児童生徒及び学校職員の安全の確保を図る。
- (2) 学校運営に支障がないように安全点検を行う。

### 2. 想定される事態

- (1) 学校生活における傷害
- (2) 登下校、校外活動時
- (3) 不審な訪問者、不審電話
- (4) 暴動（暴徒）、誘拐、拉致
- (5) 風水害、天災（地震・津波など）
- (6) その他

### 3. 安全対策

- (1) 安全点検の実施（担当責任者：学校長）
  - 月1回、月末に次の箇所の安全を点検し、必要に応じて修理・補強をアメスク側に要請する。
  - ① 校舎内＝掲示物、諸設備（電気、水道等）
  - ② 校舎外＝遊具、
  - ③ 応急処置用具
  - ④ 無線機、拡声器

### 4. 共通理解事項

- (1) 登下校及び校外活動時の不測の事態への対策
  - ① 登校時
    - アメスクの登校にも関わらず、事前連絡なしに2時限以降も補習授業校に登校していない場合、担任が保護者に出欠確認する。
  - ② 下校時
    - 保護者または運転手が来ない場合、担任が保護者に連絡を取り、学校または知人宅等で待機させる。
  - ③ 校外活動時
    - 携帯電話等を携行するとともに保護者の付き添いを依頼する。
- (2) 不審な訪問者、不審電話への対応
  - ① 児童・生徒および保護者、教職員、運転手、総領事館職員、学校使用人、日本人会会員以外の者が事前連絡なしに来校した場合、警備員は来校者を敷地外で待機させ、学校長または職員の許可がない場合は立ち入らせない。
  - ② 不審な電話があった時は、相手の氏名、電話番号、用件の概略を聞き、回答が必要な場合は、校長を通して連絡をする旨を伝え、即答は避ける。その後の対応については、職員で協議後、学校運営委員長、領事館へ連絡を取り、指示を仰ぐ。
- (3) 暴動（暴徒）、誘拐、拉致への対策
  - ① 学校に上記危機的状況が及んだ場合、職員は児童・生徒を校内の安全な場所に集め、状況の把握に努め、緊急無線機や携帯電話等を使って総領事館との連絡をとり、救援をあく。
  - ② 誘拐、拉致防止のために、下校時には保護者同伴で児童・生徒は下校すること。これ以外の特別な場合等のついては、保護者が担任等学校側に伝える。

#### (4) 風水害、天災（地震・津波）への対応

- ① サイクロンなどの風水害により道路冠水や倒木箇所などが発生し、児童・生徒の登下校の安全に支障があると予想される場合、学校運営委員長と協議の上、始業2時間前までに休校を決定し、緊急連絡網を通して、保護者に伝える。
- ② 授業開始後に風水害や天災による被害を受けた場合は、直ちに授業を中止し、学校運営委員長、総領事館、日本人会長に連絡し指示を仰ぐ。その後、必要に応じて保護者に引き取り依頼の連絡を行う。  
※情報の一本化 学校運営委員長、総領事館、日本人会長の指示を仰ぐ。
- ③ 保護者への連絡が取れない場合の待機児童には教職員がつく。

#### 5. 避難訓練の実施

- ① 年間2回 前期（4月）「地震・津波」後期（10月）「暴漢侵入を想定し避難訓練を行う。
- ② 総領事館等から緊急連絡が入った場合（携帯電話、非常ベルまたはハンドマイク使用）
- ③ 担任教師の指示に従って安全な第一次避難場所（高地、グラウンド）へ移動する。  
※津波等の場合は、AISC 3Fフロアに避難する。  
※暴漢侵入等の場合は、教師と一緒に教室内に留まる。

#### 6. 緊急連絡の方法・関係諸機関との連携

- ① 緊急連絡網を作成・配布し、電話の近くに常掲するよう依頼する。  
また転出入があった場合は、随時更新する。
- ② テレビ、新聞、インターネット、総領事館等、文部科学省等関係機関からの情報収集と連絡・問い合わせを緊密に行い、正確な情報収集・提供に努める。

#### 7. 重要書類、学校備品の管理

非常時には、下記書類及び備品を安全な場所（総領事館等）へ移動・保管する。  
最重要：①要録（通知表含）、出席簿、学校印 ②PC、ビデオ・デジタルカメラ  
重要：③文部科学省、外務省、海外子女教育振興財団書類、学校運営委員会文書、  
校舎契約書、備品台帳（データボックスに収納）

#### 8. 派遣教員不在時の対応～

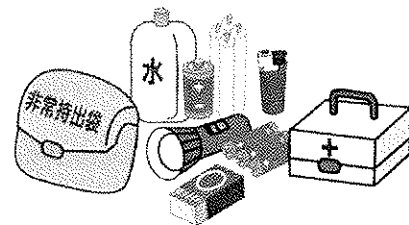
非常事態に対して学校長が不在時は、講師がこの任に当たる。

#### 9. 係分担、避難訓練の計画等

職員会議等で別途提案、協議し決定する。

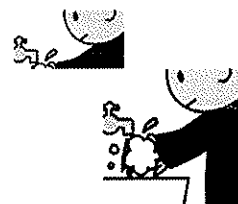
#### 10. 傷害および賠償責任保険への加入

不慮の事態に備え、傷害・賠償責任保険へ加入する。



#### 11. その他

アメスクの避難訓練実施に加えて独自に実施する。  
・地震・津波への対応  
・不審者・暴漢対策



#### 12. 新型コロナ対策

手洗いの励行  
マスク着用  
人との間隔は1.5メートル以上離す  
教室の人数制限  
休み時間ごとの換気  
机・イス等の定期的な消毒





## チェンナイ補習授業校

Japanese School Educational Trust of Chennai

---

Office Address : POLYHOSE TOWERS, Western Wing, 8th Floor, Office  
A, 86, Anna Salai, Guindy, Chennai - 600 032. INDIA

School Campus : Inside American International School Chennai  
100 Feet Road, Taramani, Chennai - 600 1 3. INDIA.

Tel / Fax +91- 44 -2254 -2912

E-mail : [jsetoc@jschennai.org.in](mailto:jsetoc@jschennai.org.in)

---